



2018～2019

# 津南ロータリークラブ週報

第2630地区 ROTARY CLUB OF TSU-SOUTH

例会日/毎火曜日  
例会場/津都ホテル 津市大門7-15  
事務所/津市大門10-7  
ピッチャーズビル2階  
TEL 225-2373 FAX 213-6175

会長/林 裕行  
幹事/飯田 聡  
E-mail: src.tsu@dream.ocn.ne.jp  
ホームページ: http://tsu-minami-rc.com/



## 第2539回例会 2018年10月16日(火) 天候 晴

10月は経済と地域社会の発展月間・米山月間



### 例会予定

- 10月23日(火) 月間関連卓話  
「最近の国際情勢と私たちの生活」  
愛知工業大学名誉教授・  
日米公認会計士 岡崎 一浩様
- 10月30日(火) 会員卓話 岡部 宏司会員
- 11月6日(火) 月間関連卓話  
地区ロータリー財団部門委員長 平井 義之様
- 11月13日(火) 外来卓話 津市議会議員 坂井田 茂様

### 進行担当 [奥田副SAA]

国歌斉唱 ロータリーソング 四つのテスト

### 出席報告 [伊藤(仁)副委員長]

10月16日 出席率 52名中 42名 80.77%  
9月18日 修正出席率 52名中 51名 98.08%

### ニコBOX [羽根委員]

- 林 裕行君 地区大会ご出席いただいた皆様、大変お疲れさまでした。また、本日報告していただく皆様よろしくお願ひ致します。
- 飯田 聡君 10月13日14日、第2630地区 地区大会にご出席下さいました皆様ありがとうございます。本日のご報告もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。
- 小川 恭平君 林会長以下地区大会に出席された皆様、ご苦勞様でした。
- 今野信太郎君 ・地区大会参加の皆様、お疲れ様でした。本日発表もよろしくお願ひ致します。  
・樋口会員には大変お世話になりました。ありがとうございます。

### 会長報告 [林会長]

- ◆10月13日(土)、10月14日(日)の2日間、長良川国際会議場、岐阜都ホテルにおいて「地区大会」が開催され、当クラブからは15名が出席いたしました。ご出席いただいた皆様、大変お疲れ様でした。また、本日、報告していただく皆様、よろしくお願ひ致します。
- ◆昨日は、女子の世界選手権バレーボール、日本対イタリア戦はフルセットで負けてしまいました。応援にも力が入り、疲れしました。十分な資料作りができませんでしたが、地区大会の報告をさせていただきますので、よろしくお願ひします。

### 幹事報告 [飯田幹事]

- ★本日、例会終了後、定例理事会開催の件
- ★例会変更 4件

### 10月定例理事会報告

- ・次年度理事役員の選考に関する件 承認
- ・親睦家族旅行の件 承認  
平成31年4月中旬～5月中旬  
宝塚観劇
- ・津南RC 年会費の件 承認  
パスト会長会開催

- 何川 高君 地区大会出席の皆様、お疲れさまでした。アグネス・チャンさんの講演は感動的でした。大会報告をお楽しみに。
- 樋口 直人君 地区大会に出席された皆様ご苦勞様でした。
- 庄司 正樹君 地区大会にご出席された皆様大変おつかれさまでした。奥田さん、松田さん、羽根さんありがとうございました。
- 田島 和雄君 いつも例会楽しみにしています。

## 地区大会のご報告

(林会長、澤田会員、庄司会員、羽根会員、樋口会員)

■■ 本田博己RI会長代理(1日目講演及び2日目アドレス)  
■「理念をかかげ、意欲を喚起し、共に行動」という木村ガバナーのテーマの中で、「意欲を喚起すること」の前提は会員基盤の強化にある。会員基盤の強化のためにはクラブの魅力がなければならない。クラブの魅力を高めることで会員満足度が向上し、意欲を喚起することになる。■前橋RCは50周年を機会にこれからのクラブの在り方を検討するためにクラブの現状を総点検し、魅力あるロータリーづくりを目指した。■まずクラブの現状把握のために会員満足度アンケートを実施し、クラブの課題と危機感を共有した。■次に理想のクラブ像、理想のロータリアン像をビジョン化した。■会員が積極的に参加でき、情報豊かな例会になっているか。会員同士の交流は盛んか。心から関心を持てる活動は行われているか。リーダーとなる人材を育てているか。学習・自己研鑽の機会は十分か。■元気なクラブづくりはクラブの理想と現実のギャップを埋めていくこと。■取組の結果、クラブ組織に対する会員の評価が高まり、RIや地区の諸活動への関心理解が深まった。また、クラブの諸活動にも積極的に参加するようになった。寄付の負担感が減った。家族のロータリーに対する関心が高まった。■クラブも地区も日本のロータリー全体も新たなビジョンづくりに取り組むべきである。■西村栄時2710地区パストガバナー基調講演「会員基盤を整える～ロータリーを知り、ロータリーを楽しむ～」■ロータリーは1905年にシカゴで始まった。親睦と相互扶助、一業種一会員、規則的例会などの制度の下に多くの職業人が集う。社会的倫理的責任感を自覚するロータリーの奉仕の哲学が生まれた。その思想を慕ってさらに多くの人が集まった。■2016年の規定審議会では柔軟性を取り入れたが、日本のロータリアンに落胆失望感が生じた。ロータリーは変化し続けるが、ロータリーの基本的特色が次第に希薄になっている。ロータリーの真価は、奉仕の理想を会得したロータリアンを幾人育てたかにある。高い倫理基準を促進する理念が破壊している。■我が国はRIで孤立しているのか。もともと我が国古来の職業観にロータリーを受け入れる素地があった。長寿企業に共通する職業人の良心があった。利益第一ではなく、信用や正直が第一。近江商人の三方良しなどもそう。ロータリーに共感して受け入れやすい歴史的環境があった。■RIで職業奉仕の理念が次第に希薄になっている。多様化・柔軟性は理解できるが、ロータリーの基本理念を促す努力が必要。変化を恐れてはならないが、変えてはならないものがある。■ロータリーの会員数減少は景気の問題だけではなく、ロータリーへの理解と愛情不足も原因にある。本来の精神をないがしろにし、規制を緩和し続けているのではないか。その結果ロータリーを知らない会員が多くなり、自信と誇りが失われている。■職業奉仕こそ普遍的で大切な価値観である。職業人の実践哲学であり、優れた倫理哲学であり、組織の質の高さを示すものである。ロータリアンとしての義務は、志は高く、頭は低く、信頼社会への先頭を歩んでいくことである。■■ 中国から留学中の米山奨学生李沫さんのスピーチ■鈴鹿大学国際人間科学部4年生。■憧れをもって日本に来たが、生活費が高くて、お金が必要で奨学金の申し込みをしたのだが、名張中央RCにやさしくしてもらい、現在はお金以上のものをもらっていると感じている。■私は何をお返しできるかを考えた。両国の懸け橋になってくださいという話を思い出した。現地で自分の心で感じなければ相手のことを本当に知ることはできない。相手のことを知らなければ、互いに尊重しあう関係が築けない。多くの中国人に日本のきれいな桜を見せるために、多くの日本人にきれいな中国を見せるために頑張ります。■学友会代表小林史子さんのスピーチ(津南クラブから1983年に財団奨学生となった小林史子さんが今年の3月からロータリー財団学友会会長にられました。)■現在は東海地方を中心に演奏活動をしながら名古屋音楽大学・金城学院大学で後進の指導にあたる。ロータリーのポリオ撲滅チャリティコンサートにも参加している。今後とも学友がお互いのキャリアや留学の経験を生かして活動していきたい。■記念講演ユニセフ・アジア親善大使アグネス・チャンさん「みんな地球に生きるひと～日本の国際化と子供の未来～」■ユニセフのポリオ撲滅のための活動に関わっている。RIのポリオ撲滅活動に感謝している。■香港生まれ香港育ち。日本に来て46年経つ。■香港でボランティア活動をして体が不自由な子供の施設に行くことになった。ボランティア活動をするまで自

分の周りしか見ていなくて自分がかわいそうと思っていた。自分が恵まれていることに気付いた。■子供たちのために何かしたいと思い食べ物を調達する方法を考えた。フォークソングクラブに入っていたので路上でリクエストをとって食べ物をもらう活動を始めた。香港は狭い。活動の噂が広まり14歳でスカウトされて歌手になった。デビュー曲がヒットし、日本でも歌ってみませんかといわれた。母が応援してくれたが父を説得するのに時間がかかった。17歳の時に初めて日本に来た。■日本に来た時日本人が「鳩」を食べないのが不思議だった。文化の違いだった。「友情・友好・平和」はみんなが同じ考えになればいいと思っていたが、この考えは浅かった。違う場所で違うように育ってきたのだから、みんな意見が違う。私は最初「海苔」が食べられなかった。カーボン紙に見えた。海藻だと聞いた。先祖の知恵だと思った。日本人は蛇を食べない。私は蛇が大好物。日本人の先祖は海に食べ物を求めたが、アジアの内陸部では先祖は皆山に食べ物を求めてきた。蛇も昆虫も漢方薬もその歴史である。友達も文化の違いを理解してくれた。気持ち悪いと言って悪かったと謝ってくれた。同じになるのは不可能。違うから面白い。「友情・友好・平和」に大事なものは同じになるのではなく違いを認めること。■現在も57か国が戦争中である。主な原因は宗教宗派歴史認識民族だが、しかし最近の原因は「水」。温暖化の影響で干ばつが深刻化し、雨が降らない地域が増えた。雨が降らなくなって放牧も農業もできない。食べられない→盗む→奪う→暴動→戦争となる。アフリカ北部はイスラム教の人が多い。イスラム過激派が入ってきて宗教戦争にかわっていく。だから環境問題に取り組むことが重要である。■私が日本に初めて来たとき日本の人は、自分との違いを認めてくれた。だから私はどこの国に行っても差別しない。差別されても時間かけて説明する。それでも差別されても憎まない。何か理由があるんだと思う。恵みを受けた人間、優しくされた人間は少し強くなれる。次の人にやさしくできる。気の長い作業かもしれないが、これが平和につながっていく。私はこのことを沖繩の人と広島の人から学んだ。大きいことを言わず、自分からやる。小さなことが広がっていくと信じている。このことが日本に来て一番の宝。■1985年にエチオピアに行った。24時間テレビで現地に行かせてもらった。日本語に骨と皮だけという表現があるが、骨と皮はくっついていない。皮がぶらぶらした状態。子供は親の背中の皮にしがみついている。人間がとことん飢えている。そこで一生懸命歌った。子供たちが自分たちの踊りで歓迎しようとしてくれた。とんでもなく悲惨な状況を目の当たりにして自分も食事が食べられなくなった。看護婦から理屈は何でも言える。それよりも与えられている役割を果たせと言われた。■その後ユニセフ大使に任命され、タイの児童買春、児童ポルノの問題を見ていといわれた。人身売買の問題もあった。AIDSに感染しても発病するまで使われ、発病した子は山に捨てられる。山奥でユニセフのNGOが子供たちを拾って育てていた。臓器提供のために売られる子供もいる。■日本では1999年児童買春児童ポルノ規制法が成立したが不十分だった。単純所持や購入は違法ではなかった。これでは犠牲者は減らない。改善しようとしたが、びっくりするほどたたかれた。それでも運動をやめなかった。被害者のことを思い出すと自分の苦勞なんて屁のようなもの。命を落とす子も一生立ち直れない子もいる。ようやく3年前に単純所持と購入が違法になった。しかし自分が殺害脅迫を受けた。その脅迫容疑で捕まった人は15歳の少年だった。私は声なき人の声になっていかなければならない。私は脅迫されたけれども殺されていない。■その次に南スーダンに行った。7万人の子供達が兵士となった。12歳の元兵士の話を聞くことができた。6歳で父を殺されて8歳で兵士になった。なぜ兵士になったのかを聞いたら、ほかにやることあるのかといわれた。兵士になるのが唯一食べられる方法だった。違う部族につかまると地雷があるところを先に歩かせられることもある。兵士の4分の1が18歳以下。3000人の子供達がいる。ユニセフからお願いしてそのうち600人の子供を開放してもらった。軍の人を説得しようとした。軍の人になぜ子供を募集したのかと聞くと、親を亡くした子供の面倒を見ているだけだといわれた。子供達を開放してくれという話をしたら周りが騒がなくなってきた。ユニセフの人たちから危ないから帰ろうといわれた。強い無力感が襲われた。しかしその後18歳以下の子供兵士がすべて解放された。スーダンの子供達のことを何か感じてくれたのではないかと思う。伝えれば良い方向に行くこともある。■「幸せの花」という歌 アグネス・チャンさんの美声とともに全員が歌詞を手話で斉唱。